

令和5年度 第1回学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和5年6月20日（火） 15：40～16：50

2 会 場 本校 会議室

3 出席委員

氏 名	役 職 等	備考
秋山 晶子	本校校長	
佐久間 弘子	中区本牧緑ヶ丘自治会会長	欠席
遠藤 五郎	中区本牧緑ヶ丘町内会 総務担当	
重田 諭吉	横浜市立大学名誉教授	欠席
新井 立夫	文教大学経営学部教授	
高橋 秀吉	横浜市立本牧中学校校長	欠席
藤井 正春	横浜市立仲尾台中学校校長	欠席
池田 加津男	牧陵会（本校同窓会）会長	
石井 清	牧陵会（本校同窓会）事業部参与	
飛田 沙織	後援三徳会（本校保護者後援会）理事長	

4 内 容

(1) 校長あいさつ

(2) 学校運営協議会委員委嘱

(3) 学校運営協議会委員・学校職員紹介

会長及び副会長の互選

・会長→重田 諭吉 様

・副会長→飛田 沙織 様

(4) 令和5年度の学校運営について（協議）

○（学事G）授業時数の確保について

・学事Gとしては授業時間の確保というところで、事業Gと協力して行っている。
行事が多い中、35週総授業数の100%達成を目指している。

○（事業G）SSHについての説明

・SSHについて改めて説明。総合的な探究の時間や、その成果発表会の実施だけでなく、海外の学校との交流や留学生の受け入れなどに取り組んでいる。また、福島ふたば未来学園高校との交流や科学オリンピック等への組織的な取り組みをおこなっているほか、地域の活動にも参加している。

⇒「未来の担い手として、他者と協働する」ということばについて、自分以外の誰かが幸せになってほしいという思い、それが未来だと思った。自分が受かればいいのか、自分が良ければいいとかそういう気持ちになると分断が生まれてしまう。そういう意味では、感謝する、共感すること、つまり「共に感謝する」という互惠性が生まれてくるとより一層、科学的に探究力を持った人材の育成につながっていくと思う。皆が揃っていく流れを作ることが、よりよい学校活動につながるという視点を取り入れて頑張ってもらいたい。

○（生徒G）生徒主体の活動の活性化の説明

- ・委員会や部活動だけでなく、今は文化祭も始まりつつあるが、それらを通じて生徒の意見が出せる場を設定し、主体的な活動の活性化を図っている。

○（広報G）地域・後援組織との連携、広報活動等の説明

- ・広報Gとして、ホームページの更新について積極的に取り組んでいる。生徒Gと協力して部活動など定期的な更新を進めることができるようにしている。また、後援組織との連携を深めて学校支援体制を整えている。昨年度は「緑高セミナー」の講師を2名依頼することができた。
⇒緑高セミナー、進路の講師など、理系や医学系の講師をお願いしていますが、それ以外のことがあれば牧陵会に依頼してください。
- ⇒地域のこと、町内会、自治会は少子高齢化が猛烈な勢いで進んでいる。立野小学校の金管バンドが緑ヶ丘の吹奏楽と一緒に練習して非常に喜んでいて、第三地区の特に保護者たちは、緑ヶ丘の吹奏楽を聞きたいというところがある。大変な人気である。できるだけ地域の中に、吹奏楽のみならず、地域の中に入っていったら喜ばれる。
- ⇒ホームページでは、校長先生のページがよく更新されているのに、保護者の方は知らない方が結構いる。マチコミ等で発信していれば保護者も見ると思う。
- ⇒なかなかSNSでの情報発信などは個人情報などで難しい。大学もやはりホームページを見てもらうしかない。

○（安全G）スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーについての説明

- ・生徒指導・支援の中で、特にSC・SSWについて、昨年度は2週間に1回の訪問であったが、今年度からは週に1回訪問していただけることになった。いままでより質的にも量的にも手厚く支援することが可能な仕組みづくりに取り組んでいる。特にSSWの方は進路の相談にも乗っている。そういうような企画も実施していきたい。
- ⇒SSW・SCについて、そう見えなくても、思い詰めている生徒がいるかも知れないので、手厚い対応をしていただければ、緑ヶ丘らしい学校生活を送れるかと思えます。
- ⇒安心・安全だけでなく、「快適」な学校環境を目指していければ、もっと学校に来たくなる。協働する教育がよりできるのではないかと思う。

○（進路G）進学支援、キャリア教育の実践等の説明

- ・進路実現に向けて、3年間を見通したキャリア教育の実践を目指している。学年によって、進路指導に違いが出ないように見通しを持っていきたい。年度初めには学年集会という形を持ってキャリアガイダンスを行ったり、進路講演会で外部の方を招いたりしている。10月には大学模擬授業を実施して、どのような進路選択をしたら良いのか考えられるように、進路実現に向けて取り組んでいる。どのぐらい、なにを頑張っていけばよいのかに気づいてもらえるような仕掛けたくさん作っていききたいと思っている。
- ・75期の進路については、国公立を目指すことをもう少し後押しできたかもしれない。また、理系の生徒たちが苦戦していた。第一志望がなぜそこなのか、を考えさせる指導をしていく必要があったと思う。

(5) その他（事務連絡等）

○第2回緑高運営協議会予定

- ・10月または11月の水・金のいずれか

○第3回緑高運営協議会予定

- ・3月3・4日のいずれか

令和5年度 第2回学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和5年12月19日（火） 14:00～16:40

2 会 場 本校 会議室

3 出席委員

氏 名	役 職 等	備考
秋山 晶子	本校校長	
佐久間 弘子	中区本牧緑ヶ丘自治会会長	欠席
遠藤 五郎	中区本牧緑ヶ丘町内会 総務担当	
重田 諭吉	横浜市立大学名誉教授	
新井 立夫	文教大学経営学部教授	
高橋 秀吉	横浜市立本牧中学校校長	欠席
藤井 正春	横浜市立仲尾台中学校校長	
池田 加津男	牧陵会（本校同窓会）会長	
石井 清	牧陵会（本校同窓会）事業部参与	
飛田 沙織	後援三徳会（本校保護者後援会）理事長	

4 内 容

(1) 校長あいさつ

(2) 授業見学について意見交換

第1学年は座学、第2学年は緑の探究の時間であった。各委員からは、生徒が主体的に活動しており、やらされている雰囲気はなく、どの生徒も課題意識をもって取り組んでいるという肯定的な声が多く上がった。例えば英語では、教員が英語で生徒とやり取りをしている姿が、これからの国際社会で通用するものになっており、生徒のプレゼンテーションも英語でできるように期待するとの声があった。また、第3学年は入試が迫る中、ピリピリした雰囲気というよりも、みんなで入試に向かってく様子が伺えた、という声もあった。

(3) 令和5年度の学校運営中間報告

(学事G) 来年度のグループの再編というものもあり、業務の整理を少しずつ進めている。出欠の確認をWEB化し、成績処理も業務のスリム化を進めている。来年度は3学年すべて一人一台端末となる。端末を持ってくる習慣がまだついていないところがあるが、教員側から意識改革をしていく必要があると感じている。

(事業G) SSHに指定されて1年半となり、特定の教員が係わるのではなく、全校で取り組んでいく体制を整えていく。多様なスタディツアーを企画しており、生徒が本物を知る機会を増やしている。また、探究活動を外部と連携しながら深めていく。最後は英語でポスターを作って発表するところを目指して国際化に対応したいと思っている。12月24日にはタイへのスタディツアーを開催する。これは緑高初の海外でのスタディツアーであり、また3月では関内ホールで探究の発表会を実施する。多くの外部発表もしていきたいと思っている。

(生徒G) 生徒グループとして、今年度については生徒の主体的な取組の支援を課題としており、1年間を通して目標を立て、生徒会・委員会・部活動の支援に取り組んでいる。実績を記録に残して、来年度以降に改善できるように、生徒自身が振り返りステップアップしていければ良いと思う。

(広報G) ホームページを通して地域の方々に学校の取組状況を発信していくということを目指している。昨日の時点で、今年度は110回の更新をしており、掲載依頼が来てから3日以内に公開できるようにしている。部活動の更新については、少し促す必要がある。後援組織、例えば牧陵会や三徳会と連携して種々のイベントに取り組んできた。体育祭では給水ボランティアでご協力頂き、体育祭を無事に終わることができた。

(安全G) 生徒の安全、教育相談や環境美化に取り組んでいる。今年度からSSW、SCが週に1回来校している。本校の生徒は自分でなんとかしたいという意識を持っている様子で、予約が埋まっていない状況である。もう少し気軽に利用してほしいと思っている。気軽に利用できる支援体制を考えている。県立高校全体でサポートドックを実施している。今のところ大きなじめめはなく、安心しているが、少し1年生の様子が気になっている。人間関係を作るのに苦労している生徒が例年に比べて多いような気がする。人間関係の構築に関して、これまでの対応とは異なった対応をする必要があるのかもしれない。

(進路G) 緑の探究での成果もあり、今の大学1年生とは良い意味で異なった意識が感じられる。世の中で言われる良い進路とは何なのか、ということについて考えているような気がする。夏休みにはオープンキャンパスへの参加、10月には大学模擬授業を実施した。大学で学ぶ意識を持ってもらうきっかけを作っている。3年生に関しては、生徒の自走を見守る立場で、特に今年は担任が丁寧に進路面談を行っていた。3年の先輩から1・2年にアドバイスを送る機会や、メッセージを残す機会を作っている。緑高の仲間意識が高まっていければ良いと思う。キャリアパスポートでは、電子媒体では愛着がわかないのか、見えるような形で残していければと考えている。横浜翠嵐でも湘南でもなく、緑高としての重点校のあり方を模索している。

(4) 全体を通して (意見交換)

○全体としてまとまった方向性を感じられた。生徒の主体性というキーワードで繋がっている。そういった積み重ねの結果として、数値を達成できれば、先程仰っていた緑高としての重点校のありかたとして良くなるのではないかと。また、外部での発表でも英語での発表ができるのでしょうか。外部組織や大学生との英語でのやり取りの機会があると励みになって良いと思います。

⇒世界津波大会では、英語での発表だった。全校を上げて英語で交流する機会が、これからもたくさんあると思う。そういう機会を逃さずにやっていきたい。

⇒ベトナムの修学旅行では、現地の生徒と英語でやり取りする機会がたくさんあった。市内の案内も英語で行っていた。

○ベトナムへの修学旅行はどのように決めたのでしょうか？

⇒最初から外国ということではなく、国内と半々でということになったが、費用の面から台湾とベトナムに絞られた。台湾だと観光の側面が強すぎてしまうと考えたため、ベトナムに決定した。

○毎年行っている緑のフェスティバルでは、卒業生が自分の学校に対して非常に高い評価をしている。こういう雰囲気は、植え付けられるものではなく、緑高にはそういういい面があるんだ、と毎年新しい卒業生が加わるたびに思う。特に学力進学重点校の数値に完全に乘ってしまうのはいかなものかと思うが、横浜翠嵐や湘南とは違う特色をぜひ打ち出してほしい。これからも大いに期待している。

○キャリアの話があって、子どもたちの先を見る力の成果が出てきたのかなと感じている。バスの運転手が不足しているが、AIや自動運転に取って代わられていく職業に関しても、生徒たちは敏感に感じ取っている。身近な努力が道を作っているというが、自分から参加してこそ楽しくなる、道を作っていくという価値観が作られていると思うので、ぜひ緑高には、ゼロから新しいものを作れるような考えを、3年間の探究活動で掘り下げ、培っていけるようお願いしたい。グローバルな課題を解決するのは難しいが、それを解決しようという意欲を持ち、AIにできないような、人間ならではのふれあいや仲介などができる人材を育ててくれればと期待している。

○先生方が同じ目標を向いて取り組んでいらっしゃるということがすごく大事で、生徒に道を示しているなど感じている。授業づくりがものすごく大切で、それを続けるということが大事だと感じた。

○地域との連携では、具体的に何を計画しているか？まず環境問題、高齢者、防災が考えられるが、実際に地域では、具体的な計画がなかなか出来ないことが多い。このあいだフェリスの音楽家の方が来て、高齢者の方々に接触を持ちたいという話が合った。福祉の領域ではたくさん出てくるなか、なにか緑高が支援できることがあるのだろうか。

⇒SSHのなかで、横浜という地域との連携を計画している。マリンFMさんと協力して、防災、特に高齢者に対する呼びかけをするということを具体的にではないが計画している。本牧のハワイアンフェスでは、子供向けの科学教室、インターナショナルスクールとの連携も模索している。

○近隣の方で、落ち葉が気になったり、イチョウアレルギーの方がいらっしゃるようだ。

⇒学校周辺は、定期的に技能員が清掃活動を行っている。

⇒いちょうの木については、切らないほうが良い。防火林といって、神社仏閣や学校では、イチョウのような水分の多い木を植えている経緯があるので、安易に切らないようにしたほうが良い。

○帰宅困難になった場合、どのような対応をするのか？

⇒学校としては、事務や安全グループの計画に基づいて必要な物資の備蓄をしている。

⇒例えば中学校では、防災拠点という事があるので、2年生では防災学習として、近隣の方に来ていただきながら、保健美化委員が防災のイベントの運営に携わったりして、実践的な活動をしている。

(5) その他（事務連絡等）

○第3回緑高運営協議会予定

・令和6年3月4または5日のいずれか

令和5年度 第3回学校運営協議会 議事録

1 日 時 令和6年3月4日（月） 15:00～16:30

2 会 場 本校 西館3階メディア教室

3 出席委員

氏 名	役 職 等	備考
秋山 晶子	本校校長	
佐久間 弘子	中区本牧緑ヶ丘自治会会長	
遠藤 五郎	中区本牧緑ヶ丘町内会 総務担当	
重田 諭吉	横浜市立大学名誉教授	
新井 立夫	文教大学経営学部教授	欠席
高橋 秀吉	横浜市立本牧中学校校長	
藤井 正春	横浜市立仲尾台中学校校長	
池田 加津男	牧陵会（本校同窓会）会長	
石井 清	牧陵会（本校同窓会）事業部参与	
飛田 沙織	後援三徳会（本校保護者後援会）理事長	

4 内 容

(1) 校長あいさつ

(2) 令和5年度の学校教育計画校内評価報告

○（事業G）今年度の探究の取組、「分析力」の育成、「生徒による授業評価」結果等の説明

・1・2学年とも8割以上が探究に対して興味をもって意欲的に取組んでいる様子が伺えるとする根拠は？

⇒「生徒による授業評価」とは別に、1・2学年の探究の振り返りアンケートも含め、SSHの振り返りを見ている。

・「生徒による授業評価」結果は学年別ではなく、全生徒分なのか？

⇒学年別ではない。教科全体として見ていくことを第一としている。教科の特色もあり、第1回と第2回の変化を伺うことができる。どういう所が良かったかの振り返りができると効果が見える。

・「生徒による授業評価」結果において、第1回と第2回で変化が見られるが、科目を総合的に組み合わせると別の特徴が現れる。科目による依存性が変化するだろう。きっかけが作られれば面白い。

○（学習G）35週総授業数1120時間の達成の説明。

○（生徒G）生徒自らの学校行事、委員会活動、部活動の企画や計画の立案・実施の説明。

・創立100年を迎えたが、行事等において伝統が引き継がれていることが実感できる。

○（安全G）SC（スクールカウンセラー）、SSW（スクールソーシャルワーカー）の来校日の増加による教育相談業務の変化、コロナ禍の影響と生徒の様子の説明。

・SSWへの相談の需要が多いということだが、今後も相談日を増やしてもらえるのか？

⇒申請すれば、SCは増やしてもらえようが、SSWは多少時間がかかるだろう。

・コロナ禍を経て日常とは違う時を過ごした生徒が高校に入学することを理解してもらいたい。

・コロナ禍は大学でも大きな影響があった。理系では実験がなくなり、経験しなくなった。

・3年間の中で町内の行事も行わなくなった。町内会館に集まる人も少なくなった。

- ・自治会からの話を伺って、若い高校生が地域の中に入って、もっと地域と絡んで取り組んでもらうとありがたいと感じた。少子高齢化が急速に進行する中、地域で何を困っているか、何が課題なのか。何か取り組みを示して広範囲に取り組んでもらえればと思う。

○（進路G）3年間を見通した進路指導、キャリアパスポート等の説明。

- ・教員以外の大人のサンプルを招いて学ばせたいという希望であるが、これまで卒業生にはキャリア形成を支援したいという声があった。若いOBにも興味・関心が伺える。OBは人材が豊富であり、さまざまなジャンルから支援に取り組むことができる。
- ・中学校ではキャリアパスポートは端末で行っているが、それぞれの工夫で行っている。
- ・大学は、理系は国公立志望、文系は早慶志望が多いということだが、大学はネームバリューで決めるのか？

⇒理系は中身をしっかりと調べようとしている。

- ・高校で一つにこだわって、目標を見失っているケースもある。目標を見つけられることが大切だと思う。

○（広報G）ホームページの情報提供の改善と公開講座の情報発信等の説明。

- ・町内会でもホームページを立ち上げているので、案内をいただければと思う。掲示板には掲示した。

○（事業G）教職員向けの年間を通した計画的な探究活動の研修の説明。

○（学事G）事故防止に向けた取組の説明。

- ・大学でも個人情報ダブルチェックを徹底させて、事故防止に向けた取り組みをかなり行っている。ミスが事故にしないことや相談できる体制が大切である。

(3) 令和6年度からの学校教育計画に係る「4年間の目標と主な方策」について

○（校長）「学校教育計画（令和6年度～令和9年度）」及び「4年間の目標と主な方策」が、現在、調整中であり、意見をもらいたい旨を説明。

- ・次世代のリーダーとしての資質・能力として重視されるのはファシリテーションの能力であると考え。具体的なものとして、何をどうするのか、スキルとマインドを磨いていくことが大切であると思う。
- ・次世代のリーダーに求められるものとして、中身として高校教育でどういうことを行うかが書かれるとよいと思う。目標を持って高校を卒業した時にこうなっているという具体のものがあるとよい。

(4) 全体を通して

特になし。

(5) その他

特になし。

以上